

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(技術・工業・情報) / 伊藤 陽介

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

- ①新学習指導要領の内容に配慮した授業計画とする。
- ②教科専門において学んだ内容と学校教育との関連性を明確にする授業を行う。
- ③実習を含む授業では、十分実習時間を確保し、より実践的な内容にする。

2. 点検・評価

- ①については、中学校学習指導要領技術・家庭科(技術分野)D. 情報に関する技術の内容「プログラムによる計測・制御」を重点的に展開し授業に組み入れた。
- ②については、教科専門において学んだ内容が具体的に学校教育で利用されている事例を紹介し、学生の興味関心を高めるように配慮した。
- ③については、十分実習時間を確保するため、実習用機材の数を多くするとともにティーチングアシスタントを配置した。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①本学の特色である少人数教育を活かした授業を展開する。
- ②ティーチングアシスタントの申請が認められた授業科目においては、協働して効果的な教育活動を行う。
- ③研究指導している学生に対してキャリア教育も行う。
- ④学生から相談があれば随時対応し、親身になって相談できる教員を目指す。

2. 点検・評価

- ①については、少人数教育を活かし、各学生の既習事項を踏まえつつ授業を展開した。
- ②については、2科目でティーチングアシスタントが配置できたため、協働して計画的に教育活動を行った。
- ③については、研究指導に加え教職を含むキャリア指導を行った。
- ④については、学生から相談があれば随時対応し、親身になって相談した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ①情報技術および情報技術教育に関する専門的な研究を推進する。
- ②研究等で得られた成果をまとめ、学術雑誌等に論文投稿する。
- ③学術講演会や研究会等に参加し、研究成果を公表する。
- ④研究助成等が採択された場合、申請した研究計画に従って実施する。

2. 点検・評価

- ①については、主に地球観測信号解析方法に関する研究と教育利用に取り組み、科学研究費補助金による研究2件と委託研究1件を実施した。
- ②については、分担執筆した「リモートセンシング教科書」が出版されるとともに論文1編が掲載された。さらに論文1編の査読が完了した。
- ③については、国際会議3件、国内学会発表16件を行い積極的に研究成果を公表した。
- ④については、平成23年度科学研究費補助金(基盤研究(C))が新規採択(研究代表者)となり、平成25年度までの計画で研究を遂行した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①各種委員会委員として、本学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

- ①については、知的財産室相談員(産学連携担当)、情報環境推進委員会委員、大学院学校教育研究科入学試験委員会委員として本学の運営に貢献した。また、大学院生確保のため、技術・工業・情報コースの案内パンフレット(12ページ)を改訂するとともに、大学等7校を訪問し、学生に対する大学院説明会を開催するなど積極的に活動した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①附属中学校教員等と協力して, 技術教育分野における共同研究を行う。(附属学校)
- ②学校教員を対象とする研修等を通して, 大学における研究活動で得られた成果を社会に還元する。(社会貢献)

2. 点検・評価

- ①については, 大学院生と協力して技術教育分野における授業開発を行い, 附属中学校の「総合的な学習の時間における選択学習(技術)」において研究授業を実施した。
- ②については, (独)教員研修センターから本学に委託された「平成23年度産業・情報技術等指導者養成研修」の講師を担当し, 本学における教育研究活動で得られた成果を学校教員に還元できた。また, 社会との連携活動では, (財)資源・環境観測解析センターのPALSARデータ利用委員会委員として地球観測技術の普及に貢献した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

科学研究補助金1件(新規採択)による研究と受託研究1件を実施し, 本学の中期計画に含まれる外部資金などを増加させる目標に対して貢献できた。